

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 293 号	氏名	春山 晃毅
学位審査委員	主 査	筑波 隆幸	
	副 査	林 善彦	
	副 査	藤原 卓	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、<i>Porphyromonas gingivalis</i> の菌体表面に存在し、蛋白分解酵素 gingipain により分解される TLR2、TLR4 非依存性の NF-κB 活性化因子の精製と同定である。歯周病原細菌由来の未知の自然免疫活性化因子の同定は、目的として十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 精製した蛋白の質量分析を行い、解析結果を ATCC 33277 株ゲノム配列のデータと照合して CDS PGN_0748 (<i>gslA</i> と命名) にコードされていることを明らかとした。更に、<i>gslA</i> 遺伝子の変異株や、組替え GslA 蛋白および抗 GslA 抗体を作製し、レポーター細胞の NF-κB 活性化において GslA が必須であることを多面的に証明していた。従って研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、質量分析、遺伝学的解析、抗体による抑制試験のいずれにおいても、<i>P. gingivalis</i> ATCC 33277 株ゲノム配列中の CDS PGN_0748 にコードされる GslA 蛋白が 7.19 細胞 NF-κB 活性化に必須であることが示された。従って、GslA がレポーター細胞の NF-κB 活性化に必須であると結論するのは妥当である。GslA 蛋白は <i>P. gingivalis</i> 菌株間において存在様式が異なり、菌株に特有な病原性に関与している可能性もある。これらの結論は、今後の更なる研究の展開が期待される。</p> <p>以上のように本論文は歯周病学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			